

事例に学ぶ
まちづくり

防災まちづくりの会 各地の先進事例を見学

防災まちづくりの会では、池袋本町のまちづくりに活かすために、先進事例の見学を行いました。6月14日には西池袋、8月18日には中板橋を訪れました。

●開放的な学校（西池袋の立教大学地区）

この地区ではすでに10年にわたって防災まちづくりが行われてきました。この地区のまちづくりの成果は施設の緑化として現れています。地区内の2つの学校（池三小、道和中）や東電変電所、民間マンション、工事はこれ



れからになります。労働省の宿舍など、多くの施設に対してまちづくり協議会が要望して緑化を実現しています。

参加したまちづくりの会の皆さんは、「学校が開放的で、特に街に開かれた歩道や広場など、やればできることがわかりました」「実物を見てそのすばらしさに目をみはりました」などと感想をのべていました。

●井戸のあるミニ広場（板橋区の仲町・弥生町・南常磐台1丁目地区）

この地区では池袋本町と同じ防災生活圏促進事業を平成6年から行っています。この地区のまちづくりの成果は、井戸を活かしたミニ広場や防災広場としてできあがっています。

民間の井戸を所有者の協力のもとにミニ広場として整備した事例を見て、「これなら池袋本町でもできるね」「さっそく井戸をさがしてみよう」などの声があがっていました。



道ぞいに井戸のある方 はご協力ください

板橋区の例を見てわかるように、各家庭にある井戸も、道に面してあると災害時に役に立ちます。井戸は多少なら配管で引いてくることも可能です。井戸の周辺の整備は区で行うことができます。

地域のために井戸を役立てたいとお考えの方は、防災まちづくりの会委員か街づくり公社にご連絡ください。

貯水槽第1号 完成

防災生活圏促進事業が始まってから整備された、貯水槽の第1号が完成しました。場所は池袋本町四丁目、埼京線と東武東上線にはさまれた区の自転車保管所です。耐震性の5t水槽が設置され、フェンス越しにミニポンプ用の採水口の設置されています。この貯水槽、実はただの貯水槽ではありません。水を使ったあとは上部に便器を付けて非常用のトイレとなります。災害時にはトイレも一大問題。これは一石二鳥の貯水槽です。



発行：池袋本町防災まちづくりの会
豊島区都市整備部地域整備課

編集協力：(株)エコライン
☎(5706)6031 担当/吉川・小野・曾田

問い合わせ先：(財)豊島区街づくり公社
☎(3981)1111 [内線] 2882 担当/石川・源田・村上

池袋本町

防災まちづくり

ニュース

【ものづくりが始まります】



まちづくりへご参加を

～防災センター・
避難場所部会 石川 實～

この防災まちづくりの会に参加して感じるの、防災まちづくりは役所やまちづくりの会だけではできないということです。ふだんから地域の方々のご理解をいただき、いざという時には協力しあって、はじめて安全で住みやすい池袋本町にすることができると思います。

私は防災センター・避難場所部会で池二小の備蓄倉庫を見学しましたが、地域の方々も区ではどのような対策を講じているかを見ておくことが必要だと実感しました。そのような理解の上で、災害の時には避難することになるかもしれない学校のあり方や、災害時の協力関係などを考えることができるようになると思います。皆さんも池袋本町の防災まちづくりにご理解をいただくと共に、いろいろな機



会にはご参加くださるようお願いいたします。

防災センター・避難場所部会長 石川 實
(池袋本町二丁目在住)

池袋本町の防災まちづくりが始まって2年目になりました。当初は防災まちづくりの計画づくりを行ってききましたが、今年からはいよいよ「ものづくり」に着手します。

まず手掛けるのは「みず」。貯水槽を始め、地区内に災害時に使える水を確保するため、徐々に整備が進められます。

一方、水以外にもやるべきことは沢山あります。防災まちづくりの会では部会ごとに計画づくりを行っています。

Ikebukuro Honcho
Bousai-Machizukuri
News

no.8